

Title	支那四千年史(後藤末雄著, 第一書房發行)
Sub Title	
Author	竹田, 龍兒(Takeda, Ryuji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1941
Jtitle	史学 Vol.19, No.4 (1941. 3) ,p.145(729)- 145(729)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19410300-0145

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ヴァンの「古代中亞帝國」をそれ／＼紹介批評して居られる。なほ今回は研究所研究部の諸氏の論文は殆ど見當らないけれども、號を重ねるに随つてそれらの方々の業績に接する事が出来るであらうと私かに期待してゐる。

最後に妄言を謝すると共に本誌の發展を祈つてやまない。

(竹田龍兒)

支那四千年史

(後藤末雄著
第一書房發行)

國民の支那への關心が昂まるに連れて支那四千年の歴史を平明に興味深く説いた概説書を要望する聲は各方面から聞えてゐたが、今日迄にこの種の書物が當然専門史家によつて書かる可くして實は殆ど書かれずにゐたのである。鳥山喜一教授の「黄河の水」などはこの意味に於て珍重すべき存在となつてゐる。一般讀者層を相手に啓蒙的な筆を執る事は一見易きに似て實は存外に苦心を要するものである。時代の熱烈なる要望にも關らず史家が自重して容易に筆を執らうとしないのを見て敢然これに應ぜられたのが後藤博士の「支那四千年史」である。發刊後旬日を出でずして早くも版を重ねつゝある事實をみても本書が如何に世に迎へられてゐるかを知るに足るのであつて行文の輕妙さと敘述の平明暢達とは流石と敬服させられるものがある。著者は「柄になく小説風の筆を弄した」と自遜して居られるが、面白く讀ませるといふ點では充分に所期の効果は收められてゐると思ふ。筆者は通讀して寧ろ面白過ぎはせぬかを感じた位である。本書をものせらるゝに際

しての著者の心構へは序言の中に明かに示されてゐる。上下四千年の歴史を限られた紙數の中に纏め上げようとするには重點主義に據らざるを得ないのは言ふまでもないが、重點の置き處如何が相當重要な問題であると思ふ。本書に於て著者は専ら重點を文化の面に置かれた結果、社會史的考察が閑却され勝ちなのが目に附く。この點讀者をして稍物足りなさを感じせしめはしないだらうか。著者は可及的廣範圍の讀者層を狙つてレベルを下げられたのであらうが、一應は支那史の基礎をなす支那大陸の地理的環境や、考古學上より見たる支那文化の始源等に關しても簡單な説明を與へて置いて頂きたかつたと思ふ。然しすべては望蜀の感に過ぎないのであつて、本書によつて一般世人の支那史に對する興味が大いに喚起せらるゝであらうことを信じて疑はない。妄評を敢てした事を謝すると共に、本書を江湖にお薦めする次第である。

(竹田龍兒)

寄贈交換圖書雜誌目錄

蒙古學報 一	蒙古研究所研究部
民族文化 三、四、五	山岡書店
書叢 十九、二〇、二一、二三	北京近代科學圖書館
Préface 八ノ六、八、九、一〇、二、九ノ一	大藏出版社
佛教研究 四ノ二、四、五、六	大東出版社
東洋思想研究 十一、十二、十三、十四	東洋思想研究所
龍谷史壇 二六	龍谷大學史學會
東洋美術研究文獻目錄(昭和十三年)	美術研究所